

第3学年 国語科学習指導案

日 時 令和4年5月25日（水）4校時
対 象 第3学年3組29名
指導者 荒巻 智子

1 単元名

『もっと知りたい、友だちのこと』（光村図書 P.40～P.43）

2 単元の目標

- 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。 【知識及び技能】
- 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 受容的、共感的に友達の話を聞いたり、肯定的な言葉や態度で意欲的に質問したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。	・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもっている。	・受容的、共感的に友達の話を聞いたり、肯定的な言葉や態度で意欲的に質問したりしている。

4 単元について

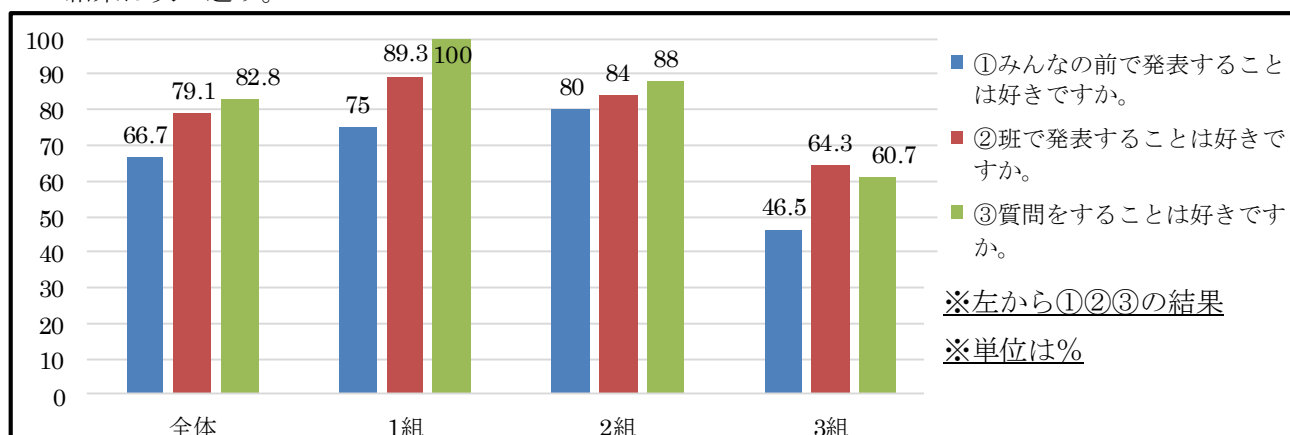
(1) 教材観

本単元は、友達の話を聞き、もっと知りたいと思ったことを質問し、心に残ったことを伝え合うという言語活動が設定された単元である。質問の種類によって得られる情報が異なることを知り、質問をすることを考えながら聞くことを身に付けさせたい。また、学校や家など自分の身近な生活を話題にすることで、質問するにあたって相手の話を想起しやすくし、質問内容が考えやすくなると思った。本単元を通して、話し手・聞き手のそれぞれの役割について知り、友達の話を受容しながら聞いたり質問をしたりする力を育てていく。

(2) 児童の実態

4月下旬頃、3年生全体に「話すこと・聞くこと」に関するアンケートを実施した。

結果は次の通り。



3年生全体では、発表することや質問することに対して「好き」と答えた児童が多かった。一方、本学級の児童は、他の学級に比べ、発表することや質問することに苦手意識を強くもっている児童が多いことが分かった。理由は、「恥ずかしい」「何と言ったらよいか分からない」等が挙げられた。

ICTの活用については、「コラボノート®EX」や「SKYMENU Cloud」等の学習ツールを活用し、自分の考えを伝える活動をしてきた。そこでは、発表を苦手としている児童も友達のよいところや振り返り等、自分の考えをもつことができていた。ICTを活用することで表現をしやすくし、発表したり質問したりする楽しさを感じさせたい。

5 研究主題との関連

(1) 主題に迫るための2つの手だて

研究主題に迫るために本単元における手だてや学習活動を以下に示す。

個別最適な学び

- ・SKYMENU Cloudの資料置き場機能を活用し、質問が考えられるようにする。(指導の個別化)
- ・カメラの動画機能を活用し、自分の発表する姿を撮影したものを見返し、発表に生かすことができるようにする。(学習の個性化)

協働的な学び

- ・意図的に3～4人の少人数グループにすることで、全員が質問できるようにする。
- ・SKYMENU Cloudのグループワーク機能を活用し、互いの考えを共有できるようにする。

(2) ICT活用の経過

タブレットの具体的な活用実態について以下の表にまとめた。

時期	ツール	内容
4月	①Google Map 検索	①地名を検索し、ストリートビューで閲覧
	②カメラ	②静止画を撮影
	③Google ドライブ	③写真を共有ドライブにアップロード
	④QR コード	④資料となるwebページの閲覧
	⑤SKYMENU Cloud	⑤発表ノート
	⑥コラボノート®EX	⑥意見集約、ポスター作成
	⑦Google Classroom	⑦意見集約(「質問」機能)、課題提出、連絡帳
	⑧Google フォーム	⑧アンケートの実施、係・当番の振り返り

5月	⑨SKYMENU Cloud ※①～⑧は継続して活用	⑨ポジショニング、カメラの動画撮影
----	-------------------------------	-------------------

6 単元の指導と評価の計画（7時間扱い 本時 6 / 7）

時	学 習 活 動	○評価規準【観点】 ★ICTの活用
1	学習課題の設定 ・教科書を読み、「友達の話を聞いて、質問する」という課題を知る。 ・色々な種類の質問があることを知る。	○学習課題に興味をもち、自分の経験と重ね合わせて考えようとしている。 【態】 ○質問の種類を理解している。 【知・技】 ★デジタル教科書「思考ツール」
2	聞き方・話し方を知る ・デジタル教科書を活用し、モデルのスピーチや質問の仕方を視聴する。 ・話し方・聞き方のよいところを話し合う。 ・発表するテーマを考える。 テーマ：ペット、宝物、習い事、嬉しかった出来事、好きな場所	○発表や質問の仕方を理解している。 【知・技】 ○身近なことから発表するテーマを考えている。 【態】 ★デジタル教科書「ワーク（動画）」
3	話す内容を考える ・テーマに沿った内容を考え、メモに書く。	○自分で考えたテーマに沿った内容を考え、書いている。 【思・判・表】
4	話す内容を文章にする ・メモを基に発表の文章をワークシートに書く。	○自分で考えたテーマに沿った内容を考え、書いている。 【思・判・表】
5	発表の練習をする ・教師が発表している動画を視聴し、改善点の見付け方を知る。 ・「SKYMENU Cloud」のカメラを活用し、自分の発表する姿を撮影して、視聴しながら発表練習をする。	○よい話し方を意識しながら、発表しようとしている。 【思・判・表】 ★カメラの動画機能
6 (本時)	発表する ・グループごとに、発表・質問をし合う。 ・「SKYMENU Cloud」の発表ノートに質問したいことを入力し、質問する。	○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 【知・技】 ○ICTを活用し、発表者に質問をしている。 【思・判・表】 ★「SKYMENU Cloud」発表ノート
7	振り返る ・話したり質問したりしたことについて、感想や心に残ったことを伝え合う。 ・学んだ質問の仕方が他の場面でも生かされることを確認する。	○話したり質問したりしたことについて自分の考えをもっている。 【思・判・表】 ★「SKYMENU Cloud」発表ノート

7 本時の指導 (6 / 7)

(1) 目標

- ◎ICT を活用し、発表者に質問をすることができる。
- 言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。

(2) 展開

	学 習 活 動	○評価【観点】 ※指導上の留意点 ★ICT の活用
導 入 5 分	1 学習の流れを知る。	
	友だちの話を聞いて、しつもんをしよう。	
	2 話し方・聞き方の確認をする。 ・前時までの学習を振り返り、話し方・聞き方を確認する。(前時までに作成した、デジタル教科書「思考ツール」で振り返る。)	※学習の流れが分かる掲示物を用意する。 ★デジタル教科書「思考ツール」
展 開 35 分	3 話し合いの流れを知る。 【発表の流れ】 ①一人目発表 (1分間) ②質問者：質問を考え、「SKYMENU Cloud」の発表ノートを編集する。(4分間) 発表者：発表したことについての感想をワークシートに書く。(4分間) ③質問をする。(3分間) ※①～③を繰り返す。 4 発表し合う。	★「SKYMENU Cloud」発表ノート ※「SKYMENU Cloud」発表ノートの編集方法について①～④のいずれかを選択する。 ①ワークシートに書いた文章を撮影し、添付する。 ②直接「文字」を選択し、文章を入力する。 ③「資料置き場」の資料からキーワードを選択し、編集して文章にする。 ④「資料置き場」の資料からキーワードを選択する。 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 【知・技】 ○ICT を活用し、発表者に質問をすることができる。 【思・判・表】
ま と め 5 分	5 振り返り ・「SKYMENU Cloud」発表ノートを共有する。 ・どんなところに気を付けて発表や質問をしたかをワークシートで振り返る。 ・次回、振り返りをするを確認する。	★「SKYMENU Cloud」発表ノート (グループワークでノート共有)

1. 視点1 「『SKYMENU Cloud』を使用したことは、児童が発表準備や質問をするうえで有効だったか。」

- カメラ撮影は、自分の発表している姿を客観的に見ることに有効だった。
- 「資料置き場」に質問するためのヒントを入れておくことで、質問と返答のやりとりが活発になった。
- 活動の記録を残したことで、友達との考えの共有や自己の振り返りに有効だった。
- 話し合いの最中にタブレットに触ってしまい、そのときにやるべき活動をやっていない児童もいた。
- 一人一人の ICT 機器の活用スキルに差がある。

2. 視点2 「『SKYMENU Cloud』のグループワーク機能は、児童にとって互いの考えを共有するのに有効だったか。」

- グループの友達が質問した内容を記録に残すことができた。
- 友達が質問した内容を見て、別の話し合いの場面で生かすことができた児童とそうでない児童がいた。

3. その他

- グループの人数を3～4人にしたことで、全員が話し合いに参加することができた。
- 聞こえる声で話すことや、相づちを打ちながら聞くなどの、話し合いの基礎はまだ身に付いていない。

指導・講評 NPO みんなのコード 福田 晴一 先生

- ・カメラの動画機能を活用し、自分の発表する姿を撮影したものを見返し、発表に生かすことができていた。(学習の個性化)
- ・SKYMENU Cloud の「資料置き場」を活用し、質問が考えられるようにしており、活用度がとても高かった。(指導の個別化)
- ・資料置き場のフレーズも子供の言葉を拾っていたのがよかった。
- ・質問をするための手だてがとてもよかった。タブレットに5W1Hをヒントとして掲示しておく、児童は入力したくなる。言葉は短かったが3年生のこの段階でここまでできていたらよい。
- ・児童は相手の方を見てうなずいたり傾聴したりすることができていた。質問と発表のやりとりが8往復もあった。質問の内容も繰り返すごとに高度になり、短い時間の中で変容が見られた。
- ・教師が、タブレットを見て進捗を確認しながら机間巡視をしていた。タイマーを活用することで、タイムマネジメントもしっかりとできていた。タブレットを活用することで、しっかりファシリテートできていた。